【主催】熱塩加納未来会議

公益財団法人リバーフロント研究所 ／ 「小さな自然再生」研究会

【共催】高郷ほんそん未来プロジェクト ／ こまがた元気会（雄国山麓ゆめクラブ）

【後援】喜多方市 ／ 福島民友新聞社

「小さな自然再生」現地研修会（第 32 回）開催報告

2026 年 7 月 11 日（土）福島県喜多方市・熱塩加納



座学研修



鷲田ビオトープ



高郷ほんそんの棚田



駒形 南原堤

公益財団法人
リバーフロント研究所

2026 年 10 月

「小さな自然再生」現地研修会（第 32 回）開催報告

2026 年 7 月 11 日（土）福島県喜多方市・熱塩加納

はじめに

福島県喜多方市熱塩加納とその周辺において、「地域活性化に向けた水辺の生物多様性向上の取組」をテーマに、専門家の座学講義とともに、会津の 3 つのビオトープや水辺活動拠点（鷲田ビオトープ、高郷ほんそんの棚田ビオトープ、駒形 南原堤）を巡りながら、ビオトープでつなぐ生物多様性の向上と地域活性化のためにできるアイデアを深めました。

この開催報告は、研修会の参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真を中心に皆様にご紹介するものです。

本研修会にご参加、またご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

2026 年 10 月

公益財団法人リバーフロント研究所

開催概要

- 開催日時：2026 年 7 月 11 日（土） 8：30～17：00
- 開催場所：鷲田多目的集会センター＜福島県喜多方市熱塩加納町＞
- 参加者：　約 60 名
- 主　催：　熱塩加納未来会議、公益財団法人リバーフロント研究所、
  「小さな自然再生」研究会
- 共　催：　高郷ほんそん未来プロジェクト、こまがた元気会（雄国山麓ゆめクラブ）
- 後　援：　喜多方市、福島民友新聞社
- 協　賛：　荒川産業「故紙コンテナパーク基金」

プログラム

（*8:30～10:45*） 開会 および 座学研修

- 開会挨拶：　山本豊、森田正明（熱塩加納未来会議）
- 話題提供 *1*：　人の営みとともにある生物多様性をめざして　近自然工法の事例紹介
  （西山穏：株式会社 ナツル ナヘル ラントシャフト 代表）
- 話題提供 *2*：　里山の潜在価値を引き出し、分かち合う仕組みづくりで社会を豊かにする
  ビオ田んぼプロジェクト
  （太刀川晴之：株式会社エーゼログループ　研究員）
- 話題提供 *3*：　植物群落の視点からみた湿地ビオトープ および 在来植生を用いたフラワーツーリズムの事例紹介
  （鈴木敏弘：いであ株式会社 主席）

（*10:45～11:40*）　鷲田ビオトープでできることを考える

（*11:40～13:00*） 昼食　および　移動

（*13:00～14:15*） ほんそんの棚田ビオトープでできることを考える

（*14:15～15:15*） 移動

（*15:15～16:10*） 駒形 南原堤でできることを考える

（*16:10～17:00*）移動　および　振り返り

（*17:00*）閉会

開会挨拶





主催・共催者を代表して、熱塩加納未来会議の山本会長および森田さんより、今回の開催経緯を含む研修会の趣旨説明を行いました。

座学研修



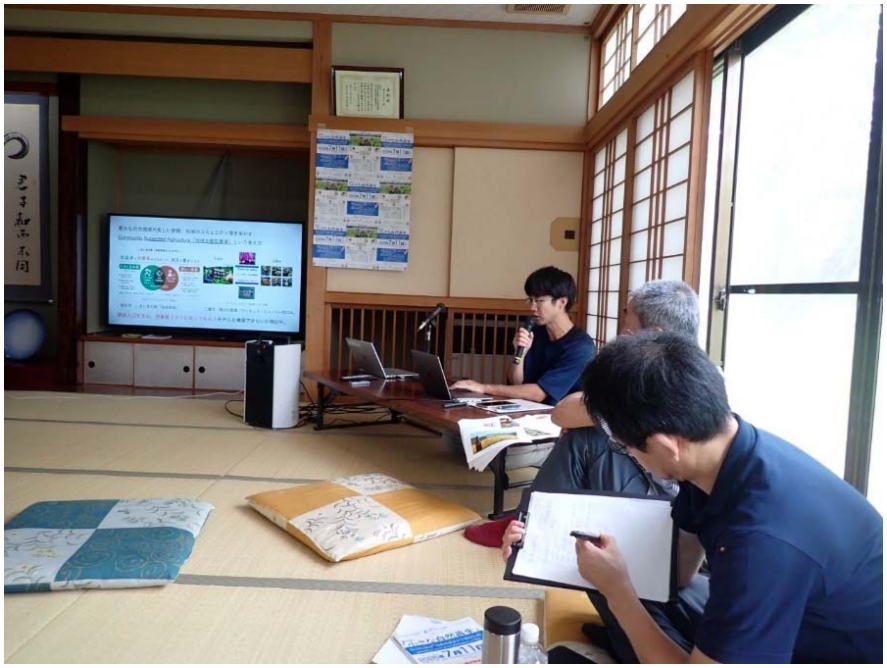


人の営みとともにある生物多様性をめざして　近自然工法の事例紹介

（西山穏：株式会社 ナツル ナヘル ラントシャフト 代表）

- 若草幼稚園「すくすくの森」の概要と里山教育について
- 体験教育の意義と里山保全の意義
- 通潤用水下井手水路の改修について

⇒　**講演資料は巻末「参考資料」を参照**





里山の潜在価値を引き出し、分かち合う仕組みづくりで社会を豊かにする

ビオ田んぼプロジェクト

（太刀川晴之：株式会社エーゼログループ 研究員）

- ビオ田んぼプロジェクトの狙い（人も自然も豊かになる農業）
- ビオ田んぼプロジェクトの特徴や取組
- 自然や生きものへの愛着を育み、田んぼの価値を最大化する仕掛けの工夫
- 中山間地の農業を持続可能にするためにできること

⇒　**講演資料は巻末「参考資料」を参照**





植物群落の視点からみた湿地ビオトープ

（鈴木敏弘：いであ株式会社 主席）

- 植物種と植物群落
- 植物群落の成立要因と遷移
- ３つの現場（鷲田、ほんそん、駒形）の植物から見た特徴
- 在来植生を用いたフラワーツーリズムの事例

⇒　**講演資料は巻末「参考資料」を参照**



座学会場の受付の様子



座学研修前のトンボ撮影ミニ講座



開会前のアイスブレイク



喜多方市議会・佐原議員よりご挨拶



事務局（佐藤）よりプログラム等の説明



事務局（兒玉）より鷲田ビオトープのトンボ解説

現地視察および実践

テーマ：「地域活性化に向けた水辺の生物多様性向上の取組」

座学では、水辺の生物多様性向上を通じて地域を元気にしていくことを主テーマに、先進的な取組を行う高知と岡山での事例や取組のヒントを学ぶとともに、植物の視点から湿地ビオトープの機能や活用策について話題提供をいただきました。

この座学での学びを踏まえ、現地視察＆実践では、鷲田ビオトープ、高郷ほんそんの棚田ビオトープ、駒形 南原堤の３つの活動拠点を巡り、各現場での生物多様性の向上と地域活性化のためにできることについて参加者で議論を深めました



高郷ほんそんの棚田での集合写真

【鷲田ビオトープでできることを考える】











＜鷲田ビオトープでの主な意見＞

- ✧ 植物の観点から、ショウブの生育を確認した（近傍に生育している外来種キショウブとは植物体を折ったときの香りの有無で差異を現地確認）。こうした多様な植生を生育していくことが望まれる。
- ✧ ワンドの底を攪拌するだけでも、埋土種子からの発芽が期待できる。
- ✧ 現状のクサヨシによる島状の地上部は、思い切って刈り取り、水面に戻すなどの管理をすることで、新たな植生を呼び込めるほか、ローテーションとすることで陸地化を防ぐことができると思われる。
- ✧ 利用の観点からは、セリ鍋にできるセリ、クリの実なども収穫が期待できるため、これらを食用とするのはおもしろい取組と思われる。
- ✧ 隣接するオニグルミ、クリなどからなる林は日陰を形成し、ヒヨドリや大型ヤンマ類の飛翔も見られている。本ビオトープと隣接することにより、自然環境の質に相乗効果が見られていることから、可能なら保全が望まれる。
- ✧ トンボの視点から、植生の管理は植物体内の卵が孵化した後に刈り取りを行うことが望まれる。
- ✧ 少し水深が大きいエリアなどビオトープの中で異なる環境をつくってもよい。
- ✧ 人為的攪乱の影響を見るために、人が入れない場所をつくってもおもしろい。



【ほんそんの棚田ビオトープでできることを考える】










ほんさんのビオトープ。

＜ほんそんの棚田ビオトープでの主な意見＞

（１）斜面上の池

- ✧ 斜面上部の池はヒツジグサが生えるなど貧栄養の要素も見られる。
- ✧ 一方で、水面を覆いつくすヒシについては、池の底部が現状で硫黄臭を呈しており、嫌気的環境に近いことから、水生生物にとって若干好ましからざる環境となっている。
- ✧ こうした点を解決する方法として、一部のヒシを除去し、水底まで光を届かせる環境を確保する方法が挙げられる。なお、この方法は浅場が形成されている環境でより有効に効果を発揮する可能性が考えられる。
- ✧ また、試行する際には、糸状緑藻の大量繁茂の可能性など想定外の環境の挙動も考えられるため、まずは小規模に実施し、反応を見ながら順応的な取組を行うことが望まれる。
- ✧ ヒシの増え方は種子から発芽して水面に展葉し、茎を下部に伸長させていくため、植物体を掬い取ることで問題ない。
- ✧ 斜面に向かって左側の池の浅場にはミズオオバコなどの沈水植物も生育しており、浅く水底まで光が届く水底が水中の植物の多様性にも寄与していると考えられる。
- ✧ 上流部の池は斜面と連続しており、成体が山地斜面に生息するクロサンショウウオやヤマアカガエルの生息場としても機能しており、斜面とセットであることから水質も良好で貧栄養なことが当該水域の動植物相に影響している可能性が考えられた。
- ✧ 農薬の混入も考えにくく、斜面下部の水田など、カメムシ防除の農薬散布をすると姿を消すタガメなどが飛来する可能性が考えられることから、産卵場となるような水面から突き出た棒などを立てておき観察してみるのも興味深い。



（２）棚田ビオトープ

- ✧ ビオトープ造成対象の下流側の未利用地は、耕作放棄水田にみられるガマ、イグサを中心とした植生である。
- ✧ 利用の観点からは子どもを含み、来場者が安心できる平らな場所で、日陰がある拠点が複数確保されていることがよい。
- ✧ ウッドデッキなどあると、利用者がアクセスしやすくなる。
- ✧ 対象地は規模があるため、足を取られない場所や水辺にふれあえる場所などを複数設置することが望ましい。
- ✧ 周辺一面にコスモスを植えることは、園芸種であることから、周辺へ逸出させない管理が必須と考えられる。
- ✧ ガマは現在の穂綿から大量の種子を秋に散布することから、散布を防ぎたいのであれば、早いうちに穂を刈り取ってしまうことが望まれる。
- ✧ 現在の場所は水域面積が少ないことからこれを広げることで、周辺の水田の水位が下がったときの水生昆虫の避難場所としての価値がより高まることが想定される。
- ✧ 今回、試験的に小規模の水域を広げたが、これらの効果について引き続き確認のうえ、良好であれば広げるなどの措置が望まれる。



【駒形 南原堤でできることを考える】















＜駒形 南原堤での主な意見＞

（１）南原堤上流側のため池内の草地

- ✧ 学名に会津の地名が含まれているカラコギカエデ（***Acer tataricum subsp. aidzuense***）は保全する。
- ✧ かつては丁寧な除草によって成立していた名残である、斜面上のオカトラノオやヒヨドリバナなどの花をつける植物がみられる。部分的でもよいので除草を行うことができれば、これらの植生の復活のきっかけになると考えられる。
- ✧ 残存地下茎からの再生力が高く、成長に伴って除去が困難になるシンジュ（ニワウルシ）は株が小さなうちにできるだけ早い段階での除去が望まれる。



（２）ため池内の沢筋

- ✧ この湿地環境の一つの方向性として、もう少し開けた湿地を目指していくことが考えられる。
- ✧ 今のようにヨシの繁茂をそのままにしておくと、やがて樹木が入り込み、遷移が進んでしまう。人手も必要となるため簡単ではないが、ヨシ帯である今の段階で思い切って伐開できれば、より開放的な湿地環境が生まれる。
- ✧ ここは植物の種類が豊富でワクワクするような環境であるが、先ほどの話は植生の観点だけでなく、水生昆虫の生息空間という点からも開けたオープンスペースがあることに意義があると思った。
- ✧ 旧池内へのアクセス候補箇所では、樹冠が存在することで下草が生えにくい環境となっていることから、これを活用し、大きな樹木は残し、林床の低木を適宜除去することが望まれる。
- ✧ 傾斜部分は踏圧によって荒れるようであれば、丸太を置くなどして人の出入りする部分とそうでない部分を分けてもよい。
- ✧ 樹冠に引っかかっている枯れ枝は、落下の危険があるため、利用前にはこれらを除去する必要がある。
- ✧ クマによる獣害対策をするのであれば、開けた場所をベルト状に意図的に造成するなどの対策が考えられる。

✧ 食べられる植物であるサルナシは保全する。

✧ 来場者が水にふれあえる場所を形成するには、沢筋に、小堤を作って堰上げて湛水させる方法が考えられる。ただし急勾配であり、水がたまりにくい場合は、棚田状に湛水部を形成するか、より湛水させやすい下流側のフラットに近い部分で実施することが考えられる。

✧ 食べられる植物としてマコモを植えた場合、本種は常時水に漬かっているような比高帯に生育するため、そのような立地条件を形成できれば、生育する可能性は考えられる。

✧ 池内を周遊できるように道状に草刈りすることも考えられる。

✧ 河道改修をする場合は、現場の試行錯誤で最適解を探っていくとよい。



（３）湿地林

✧ 日陰を好む生物の生息空間として貴重であり、保全が望まれる。

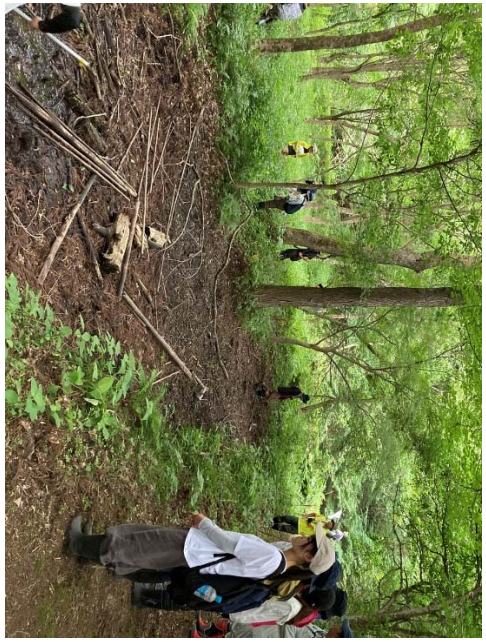
✧ 水域内には朽木が存在するが、これに産卵するトンボの仲間もいるため、存置が望まれる。

✧ 水域内にある竹は、あまり生物利用が多くないと思われることから、撤去が好ましい。

✧ 林内を利用地にするのであれば、利用する場所、させない場所をガイドロープや足場板を敷くなどして区分けするのが好ましい。

✧ 林床に散らばる倒木など、足をとられないように片付けておくことが好ましい。

✧ 水深がわずかであるため、上流部からの流水の供給が確保できるとよい。



【振り返りと閉会】



バスの中での本日のプログラムの振り返り



閉会の挨拶

参考資料 1（座学研修の講義資料）

【参考資料 1-1】　人の営みとともにある生物多様性をめざして　講演資料（1/7）

人の営みとともにある生物多様性をめざして

近自然工法の事例紹介

2026.07.11　小さな自然再生研修会 熱塩未来会議

株式会社 ナツル ナヘル ラントシャフト　西山 穂

1．若草幼稚園「すくすくの森」の里山環境保全と体験教育



学校法人 若草幼稚園　／　株式会社 ナツル ナヘル ラントシャフト

▶森の概要

すくすくの森

若草幼稚園

バス 5～10分

園児専用の体験フィールド
約 2 ha(私有地＋借用地)

月・火・木曜日に別れて、ほぼ毎週
弁当を持って来訪、約3時間ここで過ごす

園児
8クラス×15～20人
＝約150人

3



若草幼稚園の教育

「あそび」「実体験」
を通じた育ち を促す

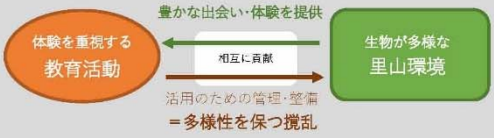


若草幼稚園パンフレットより

▶ビジョン

すくすくの森で目指すこと “里山と教育”

「自然豊かな里山環境」「豊かな体験を提供する教育環境」をともに実現する



【参考資料 1-1】　人の営みとともにある生物多様性をめざして　講演資料（2/7）













【参考資料 1-1】　人の営みとともにある生物多様性をめざして　講演資料（3/7）











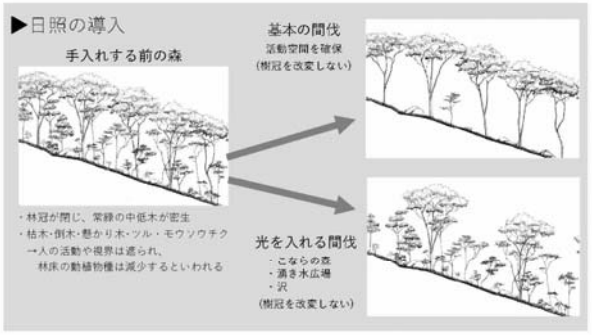


【参考資料 1-1】　人の営みとともにある生物多様性をめざして　講演資料（4/7）

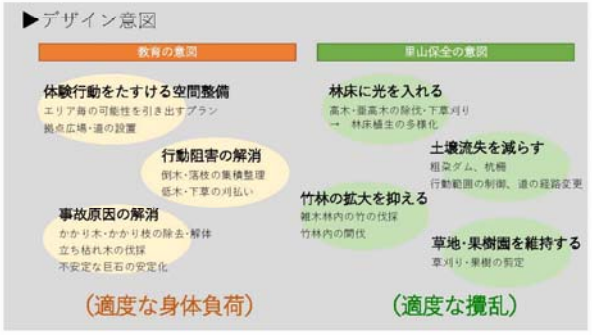




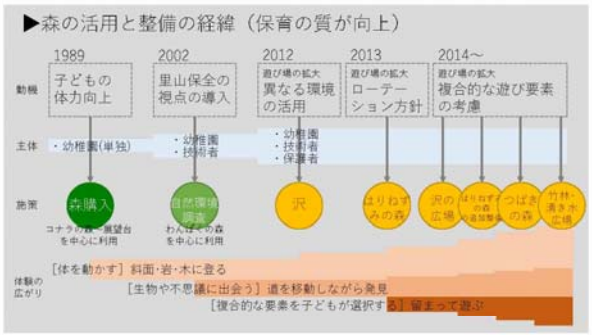


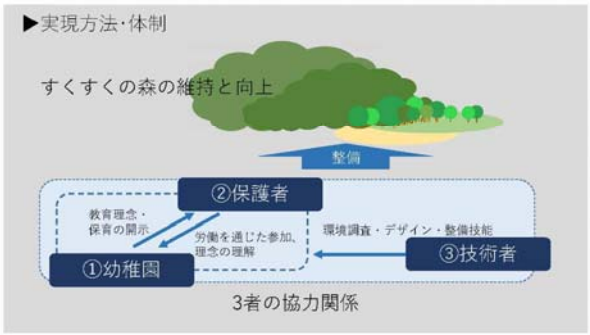






【参考資料 1-1】　人の営みとともにある生物多様性をめざして　講演資料（5/7）





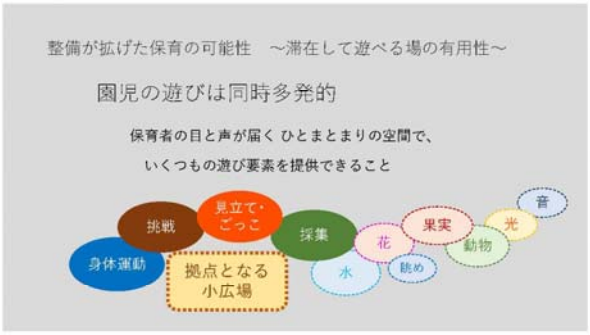








【参考資料 1-1】　人の営みとともにある生物多様性をめざして　講演資料（6/7）





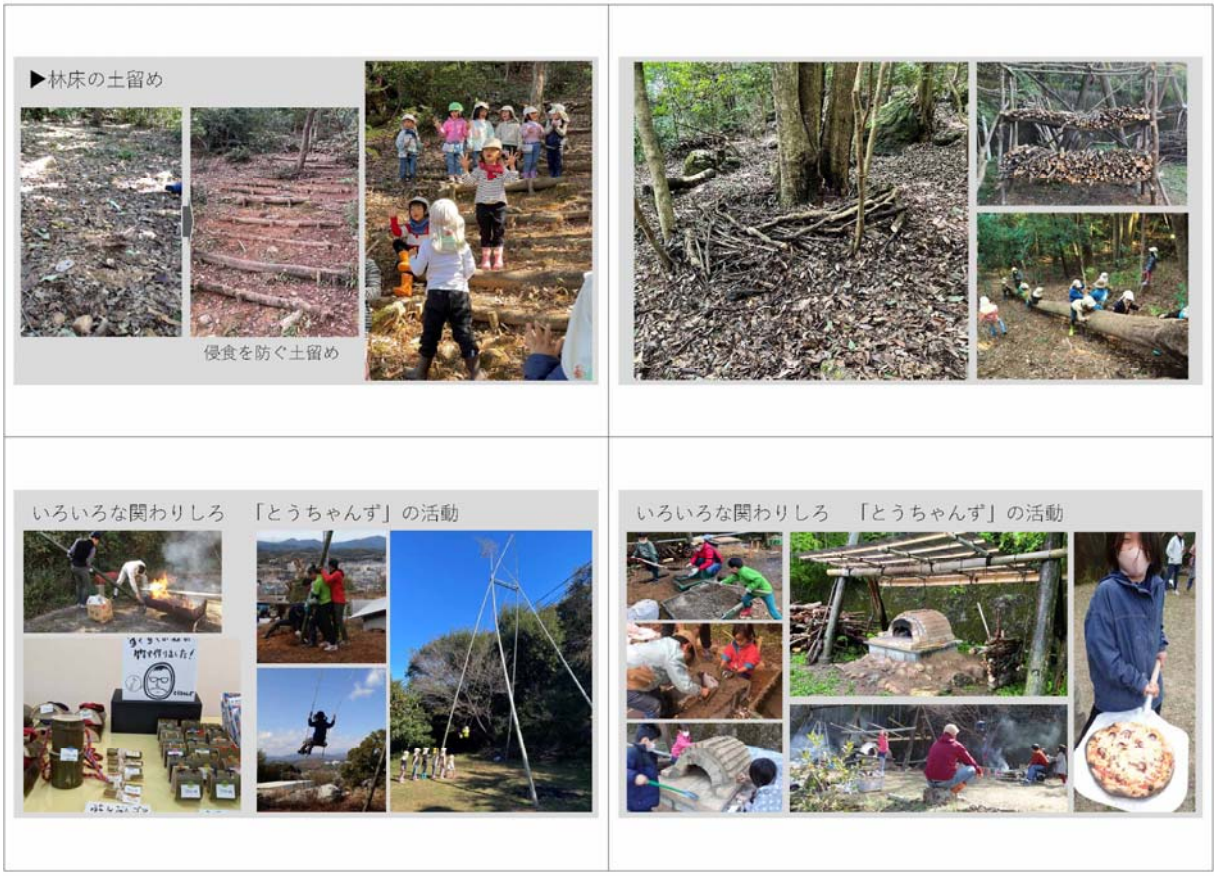








【参考資料 1-1】　人の営みとともにある生物多様性をめざして　講演資料（7/7）



【参考資料 1-2】　近自然工法と通潤用水下井手　講演資料（1/7）

近自然工法と通潤用水下井手

2026.07.11　小さな自然再生研修会 熱塩未来会議

株式会社 ナツル ナヘル ラントシャフト　西山 穂

Landschaft（ラントシャフト：景観）

無機環境＋生態系＋人間社会（とその歴史）が積層している総体

＝ 生物多様性・文化多様性の基盤構造



生物多様性は、膨大なミクロ生命集団の上に成り立つ



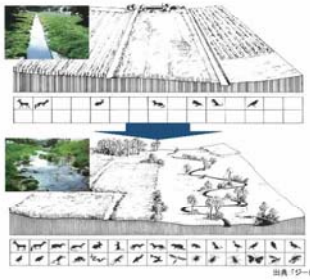
【ピラミッドの底辺に着目】
基礎生産力に寄与するミクロな物理的環境の多様性を重視

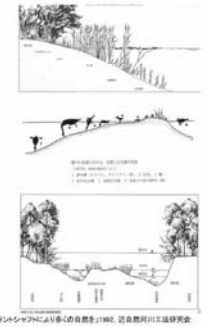


水・岩石・日照
＋有機物
の状態を整える

まるごと保全するために、底辺を支える物理環境に注目する

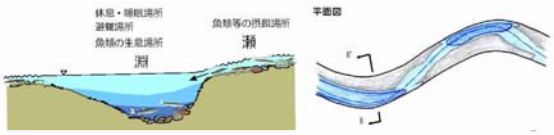
異なる環境の境界の豊かさ





出典「ジードルンゲとラントシャフトにより多くの自然を」p.992, 近自然河川工法研究会

環境の動的な形成・変化・反復更新



【川の瀬淵】出水時の流れにより土砂が動き、川が自らの営力で形成する。
この動性（ダイナミズム）が多様な生物の生息を支える（一方で、出水に対する安定性にも寄与している）。



平坦に造成され瀬淵ができなくなった川

瀬・淵が回復した川

出典「ジードルンゲとラントシャフトにより多くの自然を」p.992, 近自然河川工法研究会

【参考資料 1-2】　近自然工法と通潤用水下井手　講演資料（2/7）



【参考資料 1-2】　近自然工法と通潤用水下井手　講演資料（3/7）



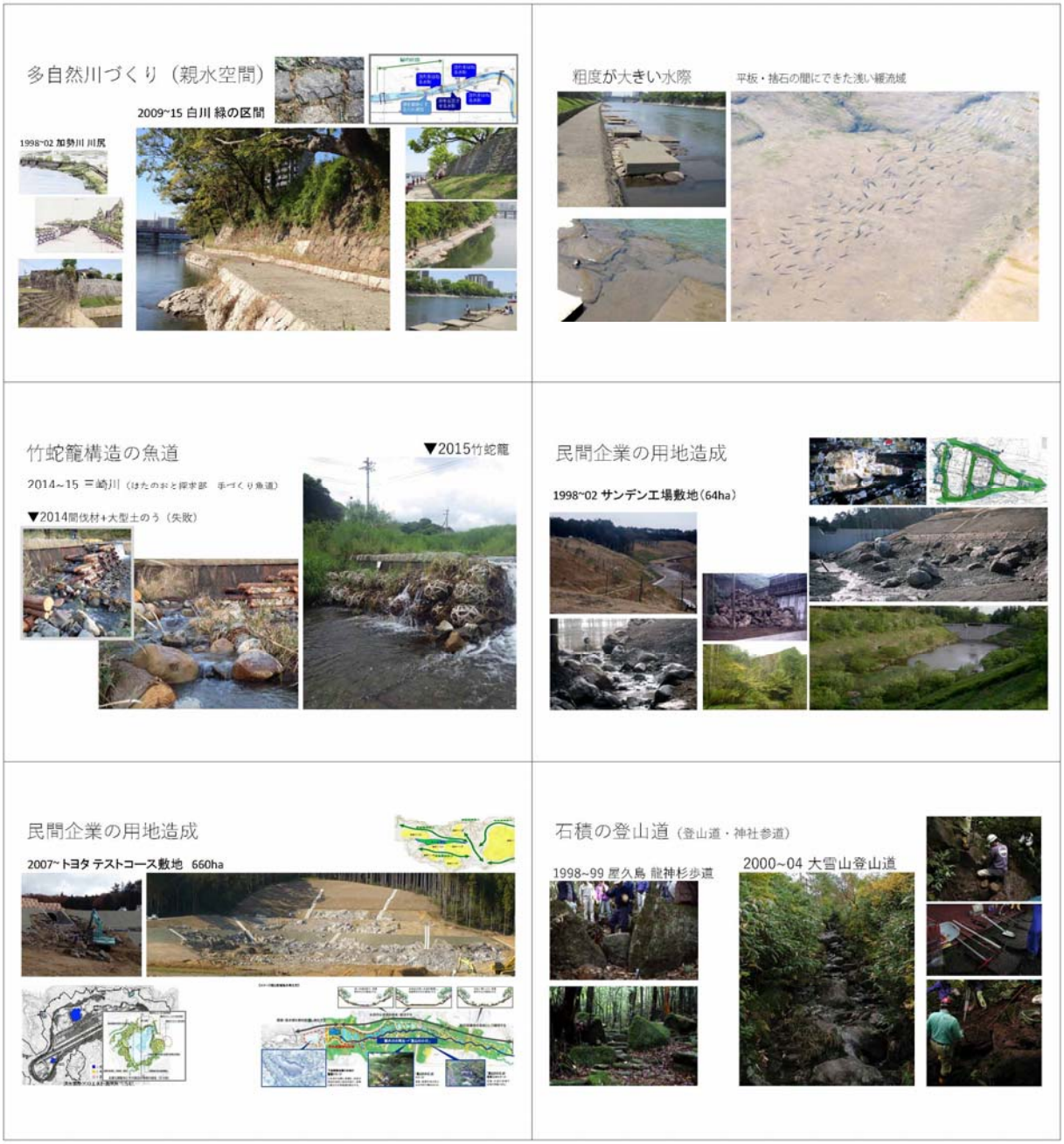
【参考資料 1-2】　近自然工法と通潤用水下井手　講演資料（4/7）



【参考資料 1-2】　近自然工法と通潤用水下井手　講演資料（5/7）



【参考資料 1-2】　近自然工法と通潤用水下井手　講演資料（6/7）



【参考資料 1-2】　近自然工法と通潤用水下井手　講演資料（7/7）



【参考資料 1-3】　ビオ田んぼプロジェクト　講演資料（1/13）



【参考資料 1-3】　ビオ田んぼプロジェクト　講演資料（2/13）



【参考資料 1-3】　ビオ田んぼプロジェクト　講演資料（3/13）

環境配慮事項

- ✓ 水田へのビオトープや江（水路）の併設
- ✓ 可能な限り除草剤不使用
- ✓ 田植え後の米ぬか散布（除草と生きものの増加）
- ✓ カメムシ防除剤（殺虫剤）不使用
- ✓ 深水管理
- ✓ 中干し延期（中干し開始時期の後ろ倒し）
- ✓ 緑肥やたい肥の施用
- ✓ 一発肥料（プラスチックコーティング）の不使用
- ✓ 畔草の高刈り



ビオ田んぼの特徴



ビオ田んぼの特徴



田んぼの環境造成

ビオトープ及び水田内水路（江）の掘削






周辺水路の環境造成




堰板による堰き止め



- 浅い
- 流れが速い
- 3面コンクリで植生や石積みがなく、生きものの隠れ場所がない

石の投入とバーブ工の設置

この水路より下流に取水している田んぼがないため、実施できた！どう広げていく？

2026年　川～水路～田んぼをポータブル魚道で連続させる







吉野川本川とビオ田んぼにつながる水路、水路とビオ田んぼを魚道で接続。
メダカ、ドジョウ等の遡上を確認

【参考資料 1-3】　ビオ田んぼプロジェクト　講演資料（4/13）

【手軽にできる！水域の連続性回復の実装】

✓ポータブル魚道

①誰でも速やかに流れを創出
②ユニットの交換で迅速な機能回復
③分割でき復元が容易

誰もが容易に水域の堰や構造物による流れの分断を改善し、地域の生物多様性が回復できることを目指し、香川高専・高橋研究室と共同プロジェクト開始。

ポータブル魚道の地域実装に取り組みながら、効果的な設置やモニタリング手法開発、普及啓発ツールやキットの開発などに取り組む予定





1.　「ビオ田んぼプロジェクト」
　　～生きものの変化～



ドジョウ・メダカの増加（2023年～）



タガメの繁殖（2024年～）



コウノトリの飛来（2025年・2026年）







水路にも砂泥や落ち葉がたまり、ヤゴ、カワムツ、ドジョウ、ヨシノボリ、タカハヤ等が多数生息できるように

【参考資料 1-3】　ビオ田んぼプロジェクト　講演資料（5/13）

2024年～　シラスウナギのビオ田んぼへの放流試験



←2026.6.9　再捕獲個体

点から面へ

・圃場内の取組　…ビオトープや江の併設、環境保全型栽培
　　畔管理、中干し延期
・圃場周辺の取組　…水路環境の整備、川～水路～田んぼの連続性回復（魚道）
　　竹林整備

圃場周辺の取組においては周辺農家や住民の理解が必要。
目的の共有と問題が発生してしまった場合の原状復帰（回復性）が鍵か
まずは小さく始めてみる。

1.　「ビオ田んぼプロジェクト」
　　～自然をどう測るか～



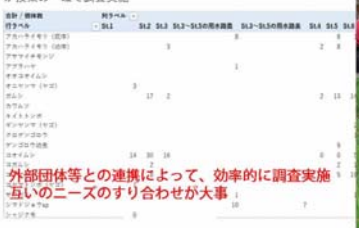
自然は回復していそう…どうやって「見えるか」する？

生物多様性への影響について、可視化することで適切な管理を積み重ねていく
自然の価値が可視化できると、住民理解や企業や行政との連携も取りやすくなる。
販売促進にもつなげられたら嬉しい…

・水田の生物多様性に関しては様々な先行研究が蓄積
・無理せず、できることからやってみる。できなければ、いろんな人の力を借りる。

自然の見える化（モニタリング）
①定性調査（圃場ごとの生物種調査）

・2025年～7月に国際自然環境アウトドア専門学校（新潟）
が授業の一環で調査実施





外部団体等との連携によって、効率的に調査実施
互いのニーズのすり合わせが大事

自然の見える化（モニタリング）
①定量調査

対象種＿タガメ（環境省レッドリストカテゴリ：絶滅危惧Ⅱ類）
※希少性・生態系上位種・識別の容易さからタガメを指標種として設定

2025年～
・成虫標識調査
・卵塊調査







2025/8/19 St.2	4 齢		
2025/8/19 St.2	4 齢		
2025/8/19 St.1	成虫		
2025/8/19 St.1	成虫		
2025/8/19 St.1	1 齢		
2025/8/19 St.1	1 齢		
2025/8/19 St.1	2 齢		
2025/8/19 St.1	3 齢		
2025/9/3 St.4		53 ♂	04-001
2025/9/3 St.4	成虫	♂	04-002
2025/9/3 St.4		63 ♀	04-003
2025/9/3 St.4		53 ♂	04-004
2025/9/3 St.4		60 ♀	04-005
2025/9/3 St.4		60 ♀	04-006
2025/9/3 St.4		62 ♀	04-007
2025/9/3 St.4		60 ♀	04-008

【参考資料 1-3】　ビオ田んぼプロジェクト　講演資料（6/13）

タガメの「マイ産卵木」設置



夏のタガメ大調査＆観察会



自然や生きものへの愛着を育む工夫

✓みんなで一緒に環境づくりや産卵場所づくりを行う
✓その後の変化を共有＆観察会実施（コミュニティ化）
✓変化をみんなで調査する（市民参加型調査）



「隠して守る」のではなく、「みんなで守る」を目指したい。
そのためには地域住民やメンバーが愛着を持ち、**地域の宝**となることが重要

生きものが増えていくことを一緒に喜べる仕掛けづくり
子供も参加できる簡単な作業

自然の見える化（モニタリング）
2026年～　テーマ検証

✓水生動物に対するマルチトープの中干し時における退避効果の再検証　（倉敷芸術科学大学）

メタン排出抑制の観点から近年推奨されている「中干し期間延長」は生物多様性保全とトレードオフの関係にあると考えられている。

その代替策として「水田ビオトープ（マルチトープ）」「江」の設置が注目されている。

⇒ビオ田んぼは温暖化対策と生物多様性保全の両立を可能にする農法となる可能性

⇒調査の合間にビオトープづくりもお手伝いいただきました！
学生のパワーはすごい！



1.　「ビオ田んぼプロジェクト」
～自然の豊かさを地域の豊かさへつなげる～



目指していること：エーゼロがモデル（仕組み）を作り、地域に広げていく。
地域の自然を見える化し、持続可能な利用をすることで
豊かな地域へつなげる。



⑥地域全体に取組が拡大
⑦関係人口が増加

③高付加価値化
④イベント実施
⑤環境教育

どんな仕掛けづくりが有効？
⇒地域ごとに異なる

①場所づくり・再生
②生物調査







【参考資料 1-3】　ビオ田んぼプロジェクト　講演資料（7/13）



【参考資料 1-3】　ビオ田んぼプロジェクト　講演資料（8/13）



【参考資料 1-3】　ビオ田んぼプロジェクト　講演資料（9/13）

環境
×農業

・地域資源を活用した環境保全型農業による省コスト化の推進
（レンゲ緑肥やたい肥の活用、減農薬栽培）
・環境負荷低減による高付加価値化にむけて
（農水省の「見える化実証」に参加。2023年は両項目で★３つ）





環境取組をしっかり見える化し、PRすることで高付加価値化は可能か

6次化や新たな販路開拓





100%西粟倉産米から生まれた日本酒



子供たちのイラストをラベルに





モノを売る？　コト（体験）を売る？

・ブランド化の難しさ（他との差別化、商品の作り込み、プロモーション…）
→　時間がかかる＆安定供給の壁

体験価値を高めることが、ファンづくりにつながり、最終的にモノを売っていくことにもつながるのではないか

✓場づくりの大切さ
✓いかに高単価な体験をつくれるか？（そこを選ぶ理由をつくる）
✓コミュニティ化することでファン度を高める

豊かな自然環境や美しい景観、地域のコミュニティ等を生かす
Community Supported Agriculture（地域支援型農業）という考え方



豊田市　しきしまの家「自給家族」



三鷹市　鴨志田農園「サーキュラーエコノミー型CSA」

関係人口を生み、西粟倉ファンになってもらうモデルを構築できないか検討中。

【参考資料 1-3】　ビオ田んぼプロジェクト　講演資料（10/13）



【参考資料 1-3】　ビオ田んぼプロジェクト　講演資料（11/13）

今までの活動の様子

○第1回
日にち：2025年4月12日
天気：晴れ
場所：ハウス横ビオ田んぼ
参加者：14名
内容：
✓生きもの探し＆回金
✓セリとマコモの株分け
✓ビオトープづくり（深の掘り上げ）
✓タガメ産卵木の設置

○第2回
日にち：2025年4月29日
天気：曇りのち晴れ
場所：佳三さんの田んぼ
参加者：11名（スタッフ込）
内容：
✓ビオトープづくり
✓生きもの探し
✓タケノコ掘り

○第3回
日にち：2025年5月3日
天気：晴れ
場所：河野さんの田んぼ
参加者：16名（スタッフ込）
内容：
✓苗の背丈プールへの並べ作業
✓生きもの探し
✓泥遊び
✓マコモ苗植え
✓ワラビ採り

今回もとても楽しい体験になりました。
子ども達がこんなに生き物好きだったっけ？と思うぐらい生き物に夢中になっていたのでびっくりしました。

思いがけない　わらびが採れてめちゃくちゃ嬉しかったです(๑>◡<๑)
いつも楽しい内容を考えていただき　ありがとうございます(๑>◡<๑)
家に帰ってから　三男が　裏用紙2枚分の絵を描いてました（ ∨ ）

こどもが自由に思う存分に遊べて、思ってた以上に喜んでました。ありがとうございます。

会員住所（市町村）



ビオ田んぼパーク パスポート

（2026年～）

ビオ田んぼという
「場所」が価値を生む

✓快適性
✓手ぶらで楽しめる
✓入り口



ビオ田んぼパーク



＜提供価値＞
・自由に遊べる、生きものだらけの田んぼや水路や川
・野生の生きものを自然のフィールドで探して、捕まえられる
・自分で探すワクワクやドキドキを味わえる

＜遊び方＞
・手ぶらでも遊べるように網やバケツ、BBQセット等の貸し出しがある
・道具は貸し出すが、遊び方は自由

＜ターゲット＞
・子供に自然体験をさせたい親
「実物に触れたい、里山で遊んでみたい」
・BASEを訪れた観光客（特に親子連れ）

思いっきり遊べる生きものだらけの田んぼ
自分で見つける楽しさや捕まえられる
ドキドキ、ワクワク

快適性は大事！

☑トイレ隣接
☑温水シャワー
☑着替え場所



ビオ田んぼパーク

○目指す事業像：訪れる人が増えるほどに、自然が豊かになる
＝「未来の里山」

★自然が荒れずに、さらに豊かになる仕組み
✓来場者は入場時に水路やビオトープに石や粗朶を入れる（小さな自然再生）
✓来場者が見つけた生きものを写真にとって投稿

⇒最新の生きもの情報を入口の掲示板でお知らせ？
みんなでつくる「ビオ田んぼ生きもの図鑑」
市民参加型モニタリングとして調査にもデータを活用

楽しみながら自然を豊かにできる仕組みや仕掛けをつくれないか？？

【指標（KPI）案】
・来場者数　（≠　石や粗朶、木杭の数）
・田んぼの生物種数



【参考資料 1-3】　ビオ田んぼプロジェクト　講演資料（12/13）

今までの活動の様子

○第1回
日にち：2025年4月12日
天気：晴れ
場所：ハウス横ビオ田んぼ
参加者：14名
内容：
✓生きもの探し＆田植
✓セリとマコモの株分け
✓ビオトープづくり（泥の掘り上げ）
✓タガメ屋根木の設置

○第2回
日にち：2025年4月29日
天気：曇りのち晴れ
場所：佳三さんの田んぼ
参加者：11名（スタッフ込）
内容：
✓ビオトープづくり
✓生きものの探し
✓タケノコ掘り

○第3回
日にち：2025年5月3日
天気：晴れ
場所：河野さんの田んぼ
参加者：16名（スタッフ込）
内容：
✓苗の背丈プールへの並べ作業
✓生きものの探し
✓泥遊び
✓マコモ苗植え
✓ワラビ採り

今回もとても楽しい体験になりました。
子ども達がこんなに生き物好きだったっけ？と思うぐらい生き物に夢中になっていたのでびっくりしました。

思いがけない　わらびが採れてめちゃくちゃ嬉しかったです(๑>◡<๑)
いつも楽しい内容を考えていただき　ありがとうございます(๑>◡<๑)
家に帰ってから　三男が　裏用紙2枚分の絵を描いてました（ ∨ ）

こどもが自由に思う存分に遊べて、思ってた以上に喜んでました。ありがとうございます。

会員住所（市町村）



ビオ田んぼパーク パスポート

（2026年～）

ビオ田んぼという
「場所」が価値を生む

✓快適性
✓手ぶらで楽しめる
✓入り口



ビオ田んぼパーク



＜提供価値＞
・自由に遊べる、生きものだらけの田んぼや水路や川
・野生の生きものを自然のフィールドで探して、捕まえられる
・自分で探すワクワクやドキドキを味わえる

＜遊び方＞
・手ぶらでも遊べるように網やバケツ、BBQセット等の貸し出しがある
・道具は貸し出すが、遊び方は自由

＜ターゲット＞
・子供に自然体験をさせたい親
「実物に触れたい、里山で遊んでみたい」
・BASEを訪れた観光客（特に親子連れ）

思いっきり遊べる生きものだらけの田んぼ
自分で見つける楽しさや捕まえられる
ドキドキ、ワクワク

快適性は大事！

☑トイレ隣接
☑温水シャワー
☑着替え場所



ビオ田んぼパーク

○目指す事業像：訪れる人が増えるほどに、自然が豊かになる＝「未来の里山」



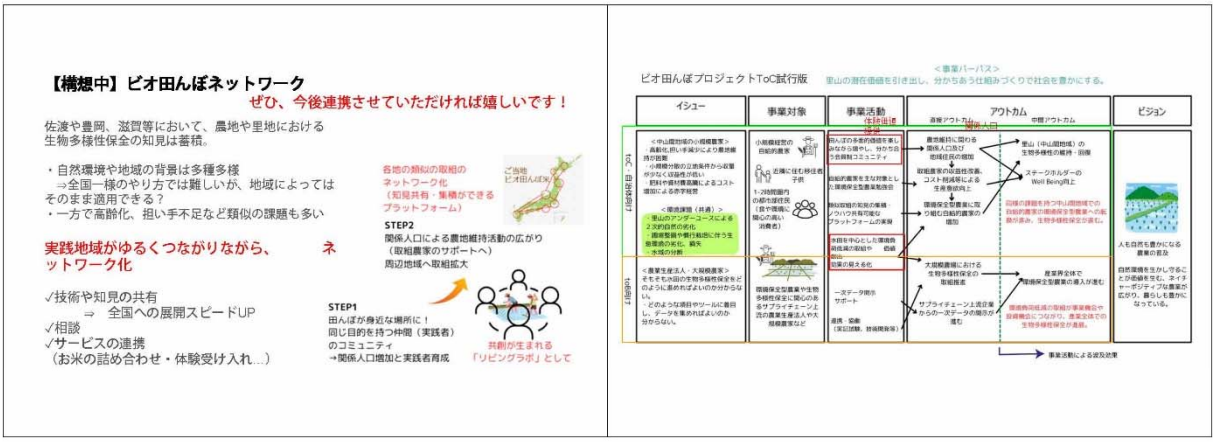
★自然が荒れずに、さらに豊かになる仕組み
✓来場者は入場時に水路やビオトープに石や粗朶を入れる（小さな自然再生）
✓来場者が見つけた生きものを写真にとって投稿

⇒最新の生きもの情報を入口の掲示板でお知らせ？
みんなでつくる「ビオ田んぼ生きもの図鑑」
市民参加型モニタリングとして調査にもデータを活用

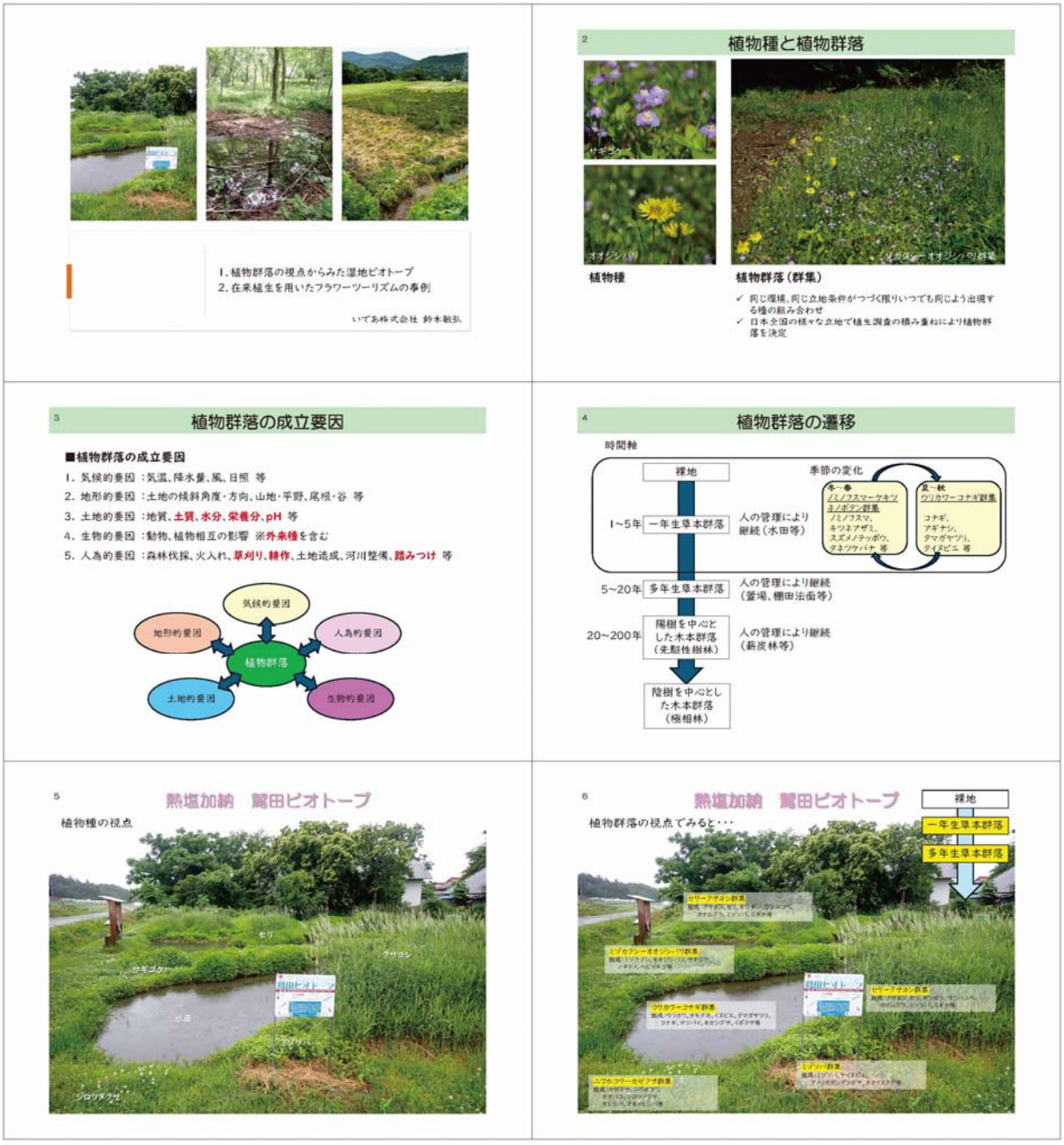
楽しみながら自然を豊かにできる仕組みや仕掛けをつくれないか？？

【指標（KPI）案】
・来場者数　（≠　石や粗朶、木杭の数）
・田んぼの生物種数

【参考資料 1-3】　ビオ田んぼプロジェクト　講演資料（13/13）



【参考資料 1-4】　植物群落の視点からみた湿地ビオトープ　講演資料（1/4）



【参考資料 1-4】　植物群落の視点からみた湿地ビオトープ　講演資料（2/4）



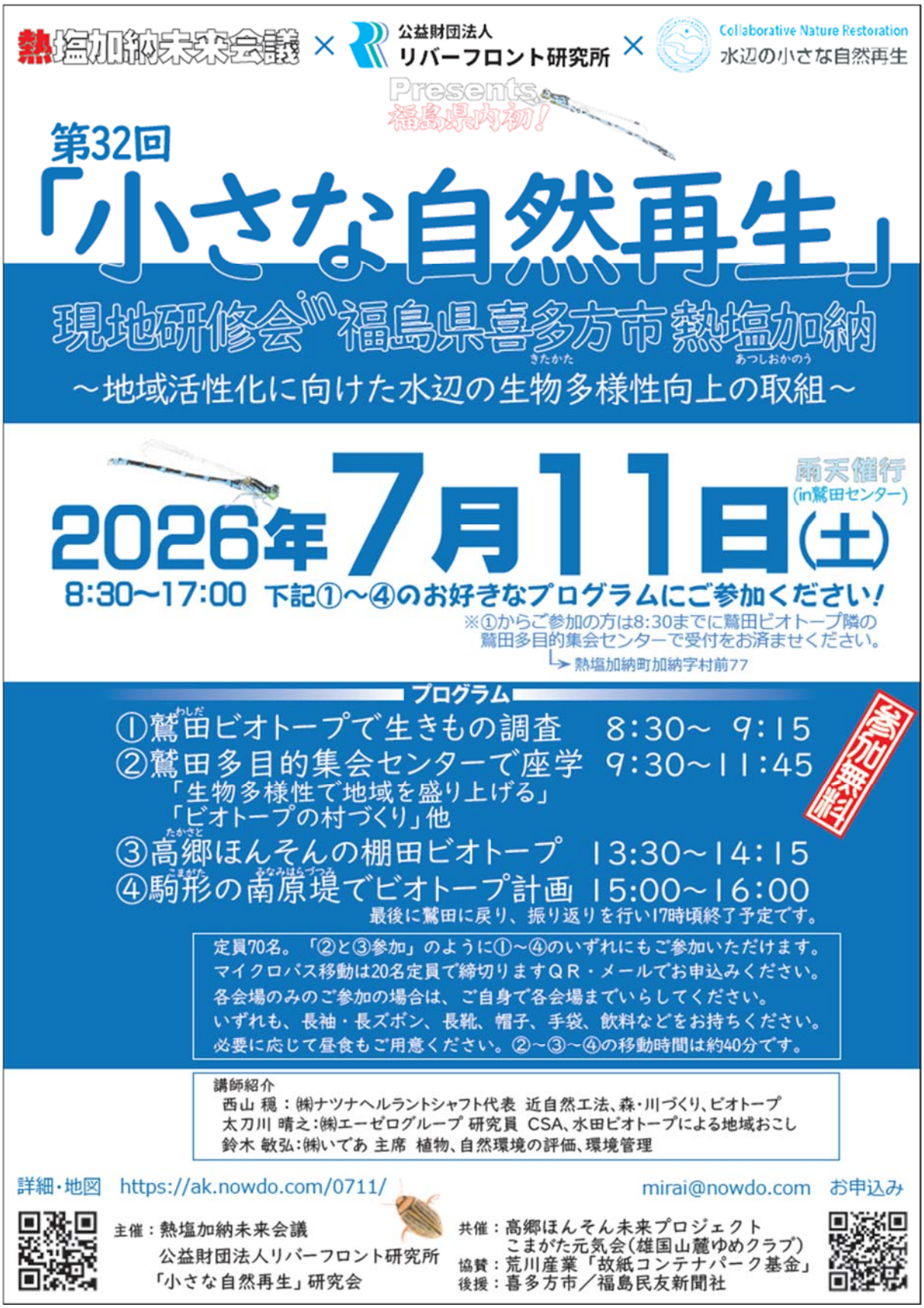
【参考資料 1-4】　植物群落の視点からみた湿地ビオトープ　講演資料（3/4）



【参考資料 1-4】　植物群落の視点からみた湿地ビオトープ　講演資料（4/4）



参考資料 2－参加者募集チラシ（表面）



参考資料 2－参加者募集チラシ（裏面）

熱塩加納未来会議 × 公益財団法人 リバーフロント研究所 × Collaborative Nature Restoration 水辺の小さな自然再生

第32回「小さな自然再生」現地研修会 in 福島県喜多方市熱塩加納
～地域活性化に向けた水辺の生物多様性向上の取組～



参加無料


絶滅危惧II類(VU)
マルガタゲンゴロウ

「小さな自然再生」特設サイト
https://ak.nowdo.com/0711/


準絶滅危惧(NT)
全長4cm ガムシ

参加無料



ほんそんの棚田ビオトープ　駒形・南原堤　鷲田ビオトープ

2022年熱塩加納鷲田の陸地化遊休田をビオトープ化、山形県境に近い熱塩加納の飯森山(1595m)が水源の平成の名水百選「栂峰渓流水」の水を流し入れ、今では絶滅の恐れのあるたくさんの昆虫などが観察できます。2025年には高郷ほんそんの棚田、2026年には駒形でもビオトープの計画・造成が始まりました。 私たちは、豊かな自然を守る生物多様性の村を目指しています。



高郷(たかさと) ほんそんの棚田
ギフチョウ(VU)
キマダラルリツバメ(NT)

駒形(こまがた) 南原堤(みなみはらづつみ) 一ノ沢
セッケイカワゲラ
オオムラサキ(NT)

VU=環境省絶滅危惧II類
NT=環境省準絶滅危惧



熱塩加納(あつしおかのう) 鷲田ビオトープ
(鷲田多目的集会センター)

マルガタゲンゴロウ(VU)
クロゲンゴロウ(NT)
ヒメゲンゴロウ(NT)
コシマゲンゴロウ
ガムシ(NT)
オオルリボシヤンマ
クロスジギンヤンマ
ショウジョウトンボ
ミヤマアカネ
オオシオカラトンボ
オゼイトトンボ
オオイトトンボ
キイトトンボ
ルリシジミ
ツバメシジミ
オナガミズアオ(NT)

https://ak.nowdo.com/0711/
詳細・地図

mirai@nowdo.com
お申込み

主催：熱塩加納未来会議
公益財団法人リバーフロント研究所
「小さな自然再生」研究会

共催：高郷ほんそん未来プロジェクト
こまがた元気会(雄国山麓ゆめクラブ)
協賛：荒川産業「故紙コンテナパーク基金」
後援：喜多方市／福島民友新聞社

熱塩加納未来会議　〒966-0103 喜多方市熱塩加納町加納字村前田甲3576-1　☎090-3543-1496

公益財団法人
リバーフロント研究所

「小さな自然再生」現地研修会（第32回）開催報告

～　2026年7月11日（土）福島県喜多方市・熱塩加納　～

2026年10月2日

【発行】

公益財団法人リバーフロント研究所

〒104-0033　東京都中央区新川１丁目 17 番 24 号　ＮＭＦ茅場町ビル７階

電話:03-6228-3861　Fax: 03-3523-0640

URL:　https://www.rfc.or.jp/

X:　https://x.com/RFC_JAPAN